

生物多様性 ～いきものの「つながり」、地域の「個性」～

「いのち」と「暮らし」を支える・・・



人が自然環境へ及ぼす影響は、この数十年間で急激に大きくなったと言われ、これから先も人が安定した豊かな社会を築いてゆくためには、「生物多様性の保全」が「カギ」となります。

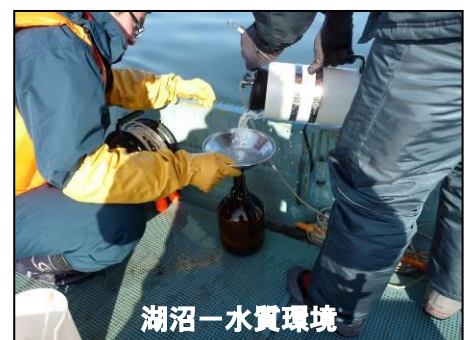
■生物多様性が直面する危機

第1の危機	<ul style="list-style-type: none"> ■開発・変更の速度はさらに低下するが、過去に行われた開発・変更の影響は継続 ■既存の住宅・産業施設・社会資本の維持・更新のための原料採取等の開発・変更など 	(例) ◆河川の連続性の低下 ◆河床低下の影響 ◆沿岸生態系における開発・変更などの複合的な影響
第2の危機	<ul style="list-style-type: none"> ■里地里山の管理・利用はさらに低下して影響が深刻化 ■中大型哺乳類の個体数増加・分布拡大が加速 	(例) ◆人工林の管理不足による斜面崩壊等の影響 ◆シカによる森林植生の破壊の影響
第3の危機	<ul style="list-style-type: none"> ■非意図的なものを含む外来種の侵入機会・既に定着した種の分布拡大の傾向はある程度継続 	(例) ◆湖沼や島嶼の侵略的外来種の影響
地球温暖化の危機	<ul style="list-style-type: none"> ■脆弱な生態系では、不可逆的な影響が生じる恐れ 	(例) ◆サンゴ礁・高山植生への影響

※引用文献 生物多様性総合評価報告書／環境省自然環境局：生物多様性総合評価委員会（H22.5）

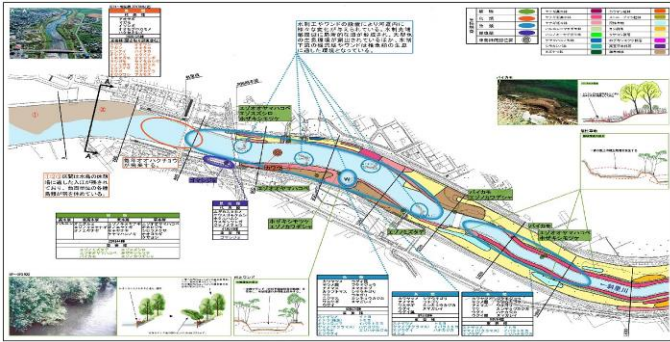
■診察する

生態系の成立状況をあらゆる角度から調べます。

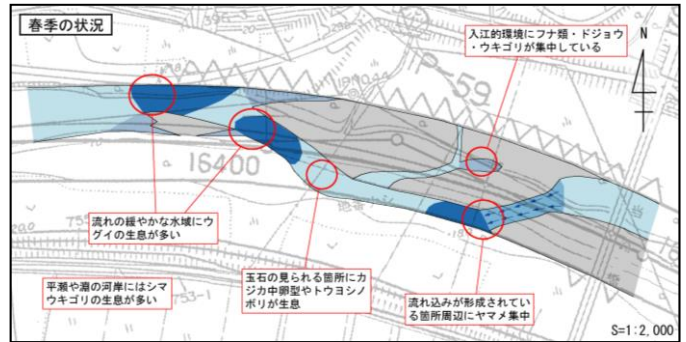


■診断する

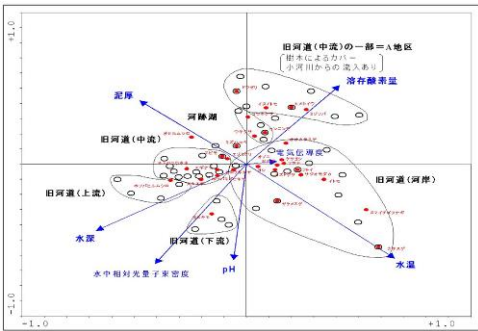
調査結果を解析し、「守るべき環境（コントロールポイント）」を抽出します。



環境情報図(総合評価)

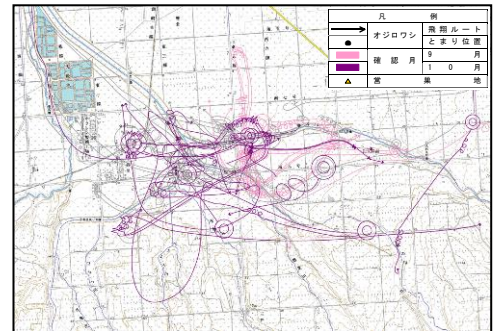


魚類生息環境評価



分散分析(植物生育環境解析)

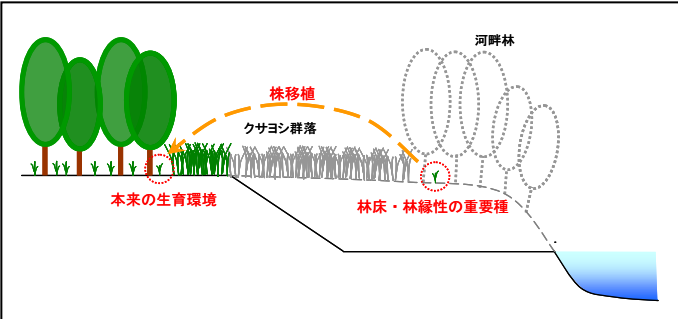
守るべき環境は？



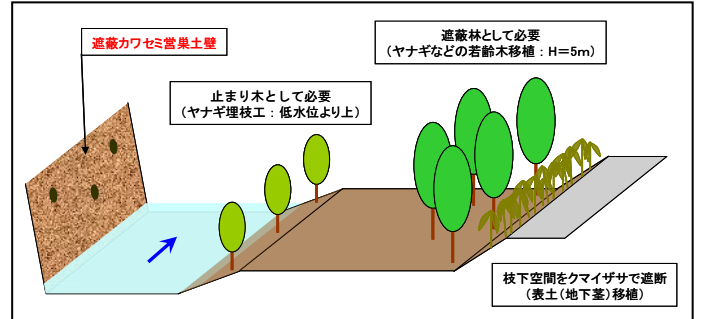
猛禽類行動圏解析

■処方する

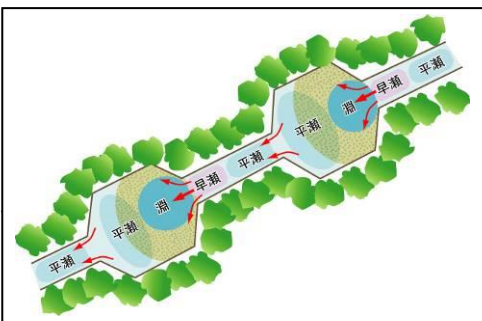
保全対策を検討し、措置後の経過を観察します。



植物種の移植による保全

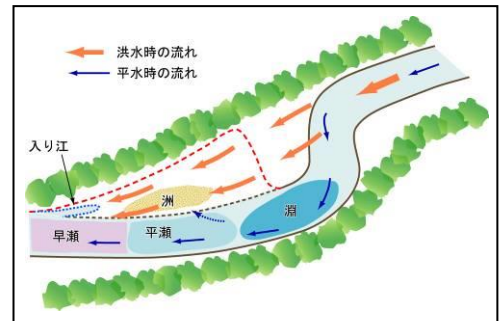


カワセミ営業環境の保全(遮蔽林)



河川環境(水域内)の多様化対策

保全対策
効果検証
(順応的管理)



効果検証



建設コンサルタント
株式会社 開発調査研究所
〒062-0054 札幌市豊平区月寒4条10丁目7番1号
TEL 011-852-3330 FAX 011-855-1298
URL <http://www.kaichoken.co.jp/>

河川・環境部

部長	淵戸 賢司 (技術士)	主 幹	小坂 英輝 (RCCM)
理事	渡辺 敏也 (技術士)	主 幹	小澤 良之 (RCCM)
理事	小西 淳一	主 幹	平井 充大 (技術士)
次 長	本田 康隆 (技術士)	主任技師	井田 卓朗 (技術士)
技師長	岡本 幸也 (RCCM)	技 師	加藤 拓磨
技師長	貴多本大器 (技術士, 環境再生医)	技 師	山下竜之介
		技 師	佐藤 康大